

## 基本計画（素案）に対する主な指摘・意見

### 「まえがき」及び「第1 基本的な方針」について

- ・ 10年後、20年後を見通してどういう方向を目指すのか、国家戦略として政策を位置付けるなど、明確なメッセージを納税者である国民全体に向けて出すとともに、農業者が誇りと自信が持てるようにすべき。
- ・ 世界的な食料のひっ迫、日本の農業の特殊性を十分に理解してもらうことが重要。国民全体の食への関心を高めてもらい、日本の農業によってもたらされる四季彩りの食への感謝と、食について自らの問題であるとの意識を持って国民的運動としてもらいたい。
- ・ 行政や関係者ならある程度分かると思うが、一般人が読んでも分かりにくい。農政の大転換をするということであれば、役所言葉ではなく、分かりやすく国民全体で共有できるような言葉が必要。副読本や解説本もあればよい。
- ・ まえがきなど、マイナスイメージが強くて暗いので、前向きに書くべき。
- ・ 全国一律・画一的な政策だけでなく、地域の裁量を認め地域実態を踏まえた政策が必要。

## 「第2 食料自給率の目標」について

- ・食料を安定的に供給するために、少なくとも先進国並みの自給率を確保することは国民的課題。自給率50%を目指すため、財政的に国民にどう支えてもらうかを考えるべき。
- ・自給率を上げていくことが国民全体に必要で、そういう自覚を持って進められる仕組みや広報活動などの具体的アクションを色濃く出し、国民に応援団になってもらうべき。その際、食品メーカー、スーパー、外食産業の協力も得るべき。
- ・生産量の拡大だけでなく、消費面や需要面での取組をもっと具体的に拡大すべき。

## 「第3 総合的かつ計画的に講ずべき施策」について

### 「1. 食料の安定供給の確保」について

#### 【食の安全と消費者の信頼の確保】

- ・基本計画の期間中に、食品の安全を担保するための法整備や組織・体制の整備について書いていただければ、消費者も安心できると思う。

#### 【食と農の結び付きの強化】

- ・日本型食生活の実践に加え、環境や食と農の連携といった視点からのアプローチを、もっと強く打ち出してもよいのではないか。
- ・国産ポイントの取組があれば、国産のものや、農業に貢献できるものを買おうというインセンティブにつながるので、色々な形で積極的に取り組むことが重要。

### 【総合的な食料安全保障】

- ・新鮮で安価な食材にアクセスできない都市の高齢者の増加が問題になっているが、これに適切に対応することにより、消費の拡大につながるような取組が必要。
- ・農林水産業が国の安全保障のための要であるということ、自国で食料のほとんどを自給できる体制を取ることにについて、国民の理解を得ることが必要。

### 【国際ルール】

- ・国際基準・規範の策定に向けたルール作りへの参画や国際貢献が必要。また、これを通じた日本農業の国際競争力の強化に向けた視点が必要。
- ・輸出を進めるのであれば、輸入も必要となり、アジア全体の農業政策を考えるべき。適切な国境措置の確保と新たな農産物貿易ルールの確立が必要。

## 「2．農業の持続的発展」について

### 【戸別所得補償制度】

- ・戸別所得補償制度については、どういう目的で行うのか、どのような農業を目指すために行うのかきちんと整理する必要がある、生産現場の実態を十分踏まえて検討すべき。
- ・多面的機能やコミュニティの維持に着目した制度として位置付けていくことが必要。

### 【意欲ある多様な農業者の確保】

- ・多様な経営体を認めて施策を進めることはあり得る選択肢だが、様態を現状維持的に固定するのではなく、どの経営体であっても生産性を高める方向性を明確に意識すべき。

- ・家族農業経営、集落営農、法人が同列に扱われている。財政が逼迫している中では、将来の農業の根幹を担う、ある一定の規模を持った経営を支えるなど、優先順位をつける必要があるのではないか。
- ・農村が活性していくためには、引っ張っていくリーダーが必要。人材育成に大きな力を入れて欲しい。

### 【経営支援策】

- ・融資を受けて立つインセンティブをどう引き出すか。制度が整備されれば十分なのではなく、さらに後押しする人作りや融資後のサポートをする機能が必要。
- ・国、市町村、農協など仲介して経営を継承できる仕組みが必要。
- ・天災に関しては、融資でなく国のサポートが不可欠。

### 【優良農地の確保と有効利用の促進】

- ・新たな農地法改正については、農地をフル活用するということを積極的に推進する立場の書き方にすべき。
- ・自給率50%を目指すために国内農地をどうするのが問題。有効利用を促進するために、農地地理情報を活用するほか、耕作放棄地の有効利用に向け、目標設定をしてはどうか。

### 【農業生産基盤整備の推進】

- ・自給率を向上させる一環として、圃場整備など生産性を向上するために必要な基盤整備は今後とも必要。

### 【農作業安全の確保】

- ・農作業事故死が増えているので、農作業の安全対策の強化は重要な課題。

### 「3．農村の振興」について

#### 【都市と農村の交流等】

- ・消費者が農村に関わることによって、自らの余暇の有効利用や都市住民の心身の健康向上（農村観光）に役立つことが期待できる。

#### 【都市農業等の振興】

- ・都市農地の意義や役割を都市住民にも理解してもらうため、都市農業や市民農園は大事。

#### 【直接支払い】

- ・農業の多面的機能や農村コミュニティの維持などに着目した新たな直接支払い制度の創設など、今後の施策のあり方を検討する必要。

#### 【農山漁村活性化ビジョン】

- ・策定は素晴らしいが、国が作ることよりも、各県、市町村がある程度国の施策に沿った形で、それぞれの実情に応じて作っていくのがよいのではないか。

### 「4．横断的施策」について

- ・省力化、温暖化対策等、研究面の充実が必要。
- ・さまざまなアイデアが地域に創出される中で、これを核としたビジネスモデルがしっかりと守られ、知的財産が保護されることが必要。

### 「第4 施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項」について

- ・農協はずしという誤解を招くような書き方があるので、文書表現に留意すべき。
- ・持続可能な農業と書いてあるが、予算の裏打ちを含め、政策自体も持続可能であるべき。
- ・様々なことをやるには、コストがかかるが、そのコストを誰がどう持つのかが明確にされていない。

## その他

### 【構造展望、経営展望等】

- ・ 構造展望を、国民にイメージしやすいようにわかりやすく示す必要がある。
- ・ 法人経営、家族農業、集落営農等、多様な経営体が農村地域でどのような役割を果たすのかについて、中山間など地帯別の考え方も入れて、数値的なビジョンとしての構造展望の資料を示すべき。
- ・ 食料自給率目標とあわせて、農業所得の増大目標が必要。地域、品目、経営類型毎に目標を立てることが必要。
- ・ 農業所得などの経済効果や雇用規模等のくらいを目指すのか具体的な数値目標を打ち出すべき。
- ・ グリーンツーリズムでどの程度人数を増やすのか。このために農家民宿などをどのように増やすのかなど、はっきりした目標を立てないと実現が難しい。